

## 中間評価 評価結果の概要

1. 研究課題名 陸・水圏物質循環実験調査

### 2. 研究の概要

青森県では六ヶ所村に再処理施設の整備が進められているが、この再処理施設の操業に伴い、当該施設より排出された放射性物質による影響を調査するため、陸・水圏実験施設を用いて放射性物質等の陸・水圏環境中での挙動、蓄積などを明らかにする予定である。

本5カ年計画では、予備試験を行い施設内に水圏および陸圏の生態系をモデルとした試験系を構築し維持管理するために必要な生物、設備に関わる各種条件を明らかにする。

3. 研究期間 平成12年度～平成16年度

### 4. 研究の成果

閉鎖系水圏実験施設での水圏生態系に関する試験では、海草群落生態系の基礎生産者であるアマモの育成方法およびアマモ場における生物相についての知見を得るとともに、アマモの分解に関わる各種要件を明らかにした。また、施設の海水循環系、ランプ、水質安定化装置群等の機能を調査しその条件を明らかにした。

閉鎖系陸圏実験施設での陸圏生態系に関する試験では、施設内での湿地域植生の維持管理も手法と制限事項を明らかにした。また、施設の光環境、温度制御、降雨装置、霧発生装置の機能を調査しその条件を明らかにした。

### 5. 評価結果の概要

一部計画の遅れがある、研究員の確保が必要、実験の組み立て・途中修正に十分な議論が必要、成果の公表が不十分等の所見があった。

総合所見として、「調査研究の目的・目標、計画さらにはスケジュールや中間的な成果はほぼ適切と判断した。研究資源や次へのステップについても妥当と判断する。自信を持って2年後の目標に向かって取り組んで欲しい。」との提言があった。

### 6. 対処方針

試験の手段・手法の目処がついたので、今後その遅れを取り戻すとともに逐次成果の公表、研究要員の確保についての検討、実験計画・途中経過についての内部の十分な議論と適切な取り進め、等に努力する。

以上